

授 業 科 目 名	臨床心理学	教 員 名	安東 桃子	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
					保育士	選択必修
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
科 目 番 号	TAI203	配当年次	2 年後期		小幼コース	
単 位 数	2 単位				幼保コース	
科 目	教職に関する科目（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程を含む。）					
科 目	告示別表第2による教科目					
系 列	保育の対象の理解に関する科目					
一 般 目 標	人間の各発達段階におけるこころの問題の知識を習得し、治療法や対応について理解する。また、 教育の場で生かすことのできる臨床的援助技法の基礎について理解する。					
到 達 目 標	(1)臨床心理学の発展と歴史について整理し述べることができる。 (2)各発達段階における心の問題について説明することができる。 (3)心理アセスメントの意味と検査法について理解し説明することができる。 (4)支援に必要な心理療法について各方法の理解を深め、実践的取り組みができる。 (5)学校現場で起きる心理的問題についての理解と対応を学習し、実践的な対応を述べることで きる。					
授 業 の 概 要	臨床心理学の概要や歴史を学習し、各発達段階におけるこころの問題の特徴と対応について理解 を深める。その上で、こころの問題のアセスメントの具体的方法と、それに基づいた臨床心理学的 支援の技法について学習する。授業形態は、講義とする。アクティブラーニングとして振り返り、 レポートを取り入れる。					
ディプロマ・ポ リシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な 問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「4. 教育に 関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」を育成する科目とし て配置している。					
授 業 計 画	第1回：臨床心理学とは何か 臨床心理学の概念について学習する。（目標(1)） 第2回：臨床心理学の概要と歴史 授業の概要と進め方、評価方法について理解する。臨床心理学の発展と歴史について理解する。 （目標(1)） 第3回：乳幼児期におけるこころの問題 母子関係や習癖など乳幼児期におけるこころの問題について理解する。（目標(2)） 第4回：学童期におけるこころの問題 自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症などについて理解する。（目標(2)） 第5回：青年期におけるこころの問題 不登校、摂食障害、心身症などについて理解する。（目標(2)） 第6回：青年期以降におけるこころの問題と精神疾患 不安障害、うつ、その他精神疾患について理解する。（目標(2)） 第7回：心理アセスメントの意味と方法 こころの問題に悩む人々を、どのような方法で援助するのが望ましいのかについて理解する。 （目標(3)） 第8回：心理アセスメントの各検査法の理解 知能検査、性格検査、発達検査など、各検査法について理解する。（目標(3)） 第9回：心理アセスメント（面接法と観察法）					

	面接法と行動観察法について、手法の理解を深める。(目標(3)) 第10回：心理療法(心理力動的アプローチ) 精神分析を基本とした心理力動的な手法についての理解を深める。(目標(4)) 第11回：心理療法(来談者中心療法) カウンセリングにおける傾聴スキルについて、ロールプレイを通して理解を深める。(目標(4)) 第12回：心理療法(行動療法・認知行動療法) 学習理論の理解と臨床場面での応用についての理解を深める。(目標(4)) 第13回：心理療法(子ども中心プレイセラピー) 遊びを通して子どものアセスメントと療法についての理解を深める。(目標(4)) 第14回：学校現場における心理的問題(不登校、いじめなど) 不登校やいじめなど学校現場で起こる問題についての理解と対応について学習する。(目標(5)) 第15回：学校現場における心理的問題に対応する これまでの講義を生かして想定した児童を、どのように理解し支援を行うかについてロールプレイを通して理解を深める。(目標(5)) 期末試験：記述式の試験を実施
学生に対する評価	期末試験70%、レポート提出15%、小レポート15%を総合的に評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
授業外学習について	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 毎回の講義では、事前学修として、講義前に配布されたプリントや指示された教科書・参考書を読み、重要な箇所についてマークするなど事前に把握・勉強しておくこと。また、事後学修として、講義で学んだことはカラーペン等でマークし、さらに板書等を書きこみ、要点等を整理して一冊のノートにまとめること。また、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。
テキスト	安東末廣 編 『生き方支援の心理学』 北大路出版
参考書・参考資料等	
担当者からのメッセージ	特になし
オフィスアワー	授業の前後の時間(メール等でアポイントを取ること。)